



がんプロフェッショナル養成プラン

▶ がん薬物療法専門医養成コース

▶ 緩和医療専門医養成コース

▶ 病理診断科育成コース

▶ がん薬剤師養成コース

▶ がん看護専門看護師養成コース

▶ がん医療ビッグデータ活用
ベーシックコース

▶ がんリハビリテーション看護
インテンシブコース



公立大学法人

和歌山県立医科大学

WAKAYAMA MEDICAL UNIVERSITY

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」 養成プランとは

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、生涯のうちに約2人に1人が、がんにかかるると推計されるなど、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっており、新たながん対策が求められています。

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランは、大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、優れた「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成することで、我が国におけるがん医療の一層の推進を目的としています。

和歌山県立医科大学は、大阪大学を中心に、兵庫県立大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、森ノ宮医療大学と共同でこの養成プランを実施しており、これら6大学がそれぞれの特徴を生かして連携することにより、がん専門医療人材を養成し、地域のがん医療の向上を図ることを目的としています。

本学には、従来より、緩和医療専門医養成コース、がん薬物療法専門医養成コース、がん看護専門看護師養成コースが設置されていますが、令和5年度より新たに病理診断科育成コース、がん医療ビッグデータ利活用ベーシックコース(インテンシブコース)が、令和6年度よりがんリハビリテーション看護インテンシブコースが、令和7年度には薬学部のがん薬剤師養成コースが新設され、さらに充実した研修内容となっています。

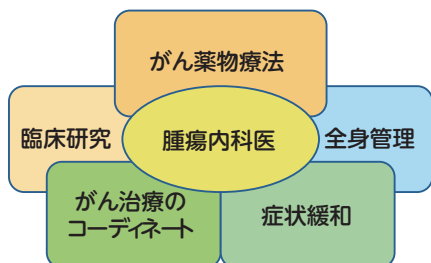
和歌山県立医科大学内科学第三講座 教授
和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター センター長
がんプロフェッショナル養成プラン コーディネーター

山本 信之

▽がん薬物療法専門医養成コース

がん薬物療法専門医(腫瘍内科医)の役割

1. 臨床腫瘍学を中心に、がんの基礎医学、臨床薬理学、緩和医療学を修得する。
2. 臓器横断的ながん薬物療法を修得した上で、病態や社会背景にも配慮した質の高いがん医療を実践する。
3. 診療科・職種横断的チームでリーダーシップを発揮する。
4. がん治療に関するコンサルテーションやセカンドオピニオンに適切に対応する。
5. 科学的な研究手法と論理的な思考を学んだうえで積極的に臨床試験を立案、推進、実践する。
6. がんゲノム医療を理解し適切に推進、実践できる。
7. がん薬物療法に伴う副作用に適正に対処できる。
8. 基本的緩和医療を実施できる。



申請資格

新専門医制度・腫瘍内科領域専攻医研修に関しても該当者は併せて熟読のこと

1. 申請時において(医師国家試験合格後2年の初期研修を修了した後) 5年以上がん治療の臨床研修を行っていること、および、がん治療に関する十分な業績があること
※国家試験合格：2016年以前の方
[文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのもとで大学院医学博士課程を卒業したものは、2008年4月8日通知の5\)の定めに従い、申請可能であること](#)
2. 当学会認定研修施設において当学会所定の研修カリキュラムに従いがん薬物療法を主とした臨床腫瘍学の臨床研修を行い、これを修了していること
3. [各科の基本となる学会](#)の認定医あるいは専門医の資格を有していること
4. 申請時において臨床腫瘍学に関連した論文1編(共著可)および当学会での発表1編以上(共著可)を行っていること
5. 申請時から遡って過去3年間に、当学会の主催する教育セミナー Aセッション・Bセッションをそれぞれ1回以上出席(受講)していること
6. 当会会員は、申請書登録完了までに該当年度までの会費を納めていること



緩和医療専門医養成コース

和歌山県立医科大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、緩和ケアセンターは、「緩和ケア病棟」、「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来・がん看護相談外来」、の3つの診療体制をとっています。がん診断時から外来・入院でのがん治療中さらに終末期もしくはがん治療後合併症が残るサバイバーのフォローに至る切れ間ない患者のライフサイクルに適した緩和ケアを学ぶことが出来ます。また、麻酔科ペインクリニックとの連携によって、各種ブロック（腹腔神経叢ブロック・内臓神経ブロック・脊髄鎮痛法など）の適応・手技・管理を習得できます。腫瘍センター・骨転移キャンサーボードに参加することで早期の再発・転移の発見と集学的治療を学ぶことが出来ます。在宅療養に関しては患者支援センターとの連携によってかかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携を密に持ち、患者／家族が望む療養場所での療養を可能にするこの意味を学ぶことが可能です。

取得が見込まれる資格

認定学会名 日本緩和医療学会
資格名 緩和医療専門医・指導医

資格条件(専門医)

1. 日本国の医師免許を有する者
2. 5年以上の緩和医療の臨床経験を有する者または「がんプロフェッショナル養成プラン緩和医療専門医コース」を修了した者または19基本領域学会専門医資格を取得した者
3. 本学会が認定する基幹施設・連携施設・認定研修施設(旧制度)において2年以上の緩和医療の臨床研修を修了した者*
4. 下記①～②の条件を満たし、自ら緩和医療を担当した20例の症例報告を提出すること*
 - ①全例が基幹施設・連携施設・認定研修施設(旧制度)の症例であること
 - ②20例「安んせ」「状態精神」「外以み痛(状態体身」「み痛」「、ちうの「苦痛緩和のための鎮静」「社会的な関わり」「スピリチュアルな関わり」を中心とした症例が1例ずつ以上あること(症例はがん疾患に限らない)
5. 緩和ケア研修会(PEACE project)または、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会を修了していること
6. 下記のいずれか1つの業績を有すること
 - a) 緩和医療に関する筆頭著者の原著論文(査読付き/共著不可)
 - b) 緩和医療に関する筆頭著者の症例報告(査読付き/共著不可)
 - c) 本学会学会誌での筆頭著者の活動報告
 - d) 本学会(学術大会***)での筆頭演者の一般演題発表(口演あるいはポスター発表)

※シンポジウムや教育講演、ランチョンセミナー等は不可

* 申請年より遡って5年以上のものとする

** 支部学術大会は該当しない



病理診断科育成コース

がんの臨床において、病理診断学は欠かすことの出来ない臨床医学の1つで、がんの診断や治療戦略に大きく関わっています。病理診断学を包括する病理学は、疾患の病態を特に形態学の観点から研究を行い、基礎医学と臨床医学の2つの側面を持っています。近年、がん研究は、疾患単位から個々の患者単位へと移ってきていますが、今後、がんの発生や早期発見を目指す上で、がん細胞単位へと進んでいくものと思われます。がんを細胞単位で研究するには、個々の細胞形態を認識する病理学的見地は必須です。

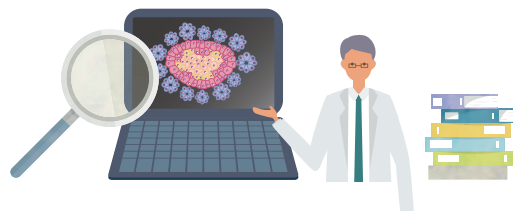
本がんプロの病理診断科育成コースでは、基礎医学と臨床医学の2つの側面を融合させ、病理学的見地に立って、細胞生物学的解析に基づいたヒトのがんの病態の解明を行い、臨床に還元できる病理医、臨床医、臨床検査技師ならびに研究者の育成を目標としています。

取得が見込まれる資格

認定学会名 国家資格
資格名 死体解剖保存法による死体解剖資格
資格条件 厚生労働省ホームページを参照

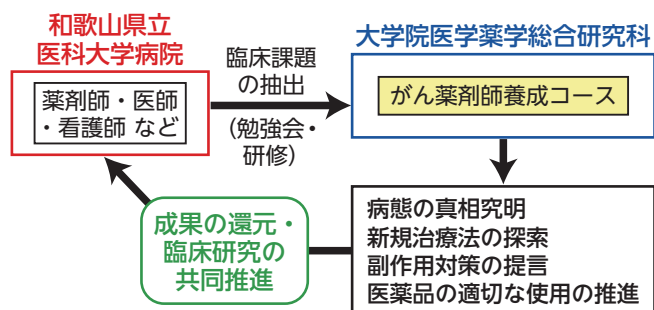
認定学会名 日本専門医機構
資格名 病理専門医
資格条件 日本病理学会ホームページを参照

認定学会名 日本臨床細胞学会
資格名 細胞診専門医
資格条件 日本臨床細胞学会ホームページを参照



▽がん薬剤師養成コース

本プログラムは、県内外での医療施設における短期研修や医師・薬剤師・看護師との情報交換を通して、複雑化するがん薬物療法および支持療法の薬剤選択アルゴリズムについて学ぶだけでなく、臨床における clinical question について積極的に調査・研究して答えを見出し、臨床現場に還元することができる薬剤師の養成を目指します。また、副作用や効果の予測による個別化化学療法の研究者であり、かつ薬物チーム医療の先導者というバイリンガル医療人の養成という点も大きな特色としています。



修了要件と履修方法

本課程に4年以上在学し、下記の合計35単位以上を履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【共通科目】

- ・合計3単位

【ベーシック科目】

- ・合計5単位以上

【専門科目】

- ・腫瘍学特論、免疫・発がん特論を含む合計5単位以上

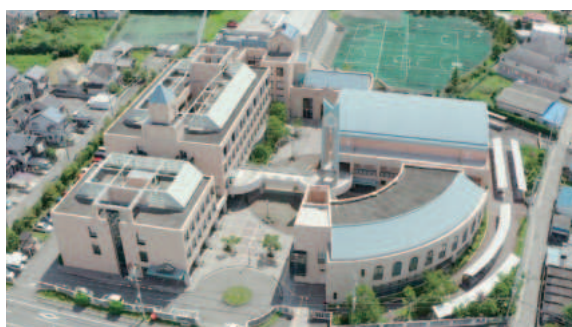
【特別科目】

- ・特別演習Iを合計6単位
(主科目：2単位、副科目 1：2単位、副科目 2：2単位)
- ・特別演習IIを合計2単位(主科目)
- ・特別研究を合計14単位(主科目)



▽がん看護専門看護師養成コース

がん看護専門看護師コースでは、がん看護におけるスペシャリストを養成することを目的として開設しています。単に、高度な技術を習得し理論を活用した看護の介入ができることなく、時代背景、社会のニーズに目を向け、患者さまから期待され求められるスペシャリストの育成を目指しています。このナースさんに頼りたい、このナースさんに相談すれば、希望を見出すことができる、そんな看護師と一緒に目指していきましょう。



資格取得の流れ

看護師の資格取得後、通算5年以上実務研修をしていること。そのうち通算3年以上は専門看護分野(がん看護)の実務研修であること。



大学院修士課程において、専門看護師教育課程の所定の単位(26単位以上)を取得した者。日本看護系大学協議会により認定された専門看護師教育課程の有効期間内に取得した単位が26単位以上あること(科目等履修による取得含む)。2024年からは、38単位でのみ申請可能となる。和歌山県立医科大学がん看護専門看護師コースは、修了要件を46単位としている。



認定審査(2025年度 第35回 専門看護師(CNS)認定審査 審査・申請の手引き参考)

6月：審査申請 10月：筆記試験 12月：合否発表



専門看護師認定証交付(合格者)：翌年2月

その後は、5年毎に更新(看護実践の実績、研究業績等書類審査)



当コースでは、和歌山県がん看護専門看護師症例検討会への参加、卒業後も継続したフォローアップを行い、資格取得や論文投稿の支援をしています。卒業生は、研究生、博士後期課程に進学し継続して学びを深めています。

▽がん医療ビッグデータ利活用ベーシックコース

近年、リアルワールド・データ(RWD)に代表される医療ビッグデータが脚光を浴びています。この潮流は、がん臨床研究においても例外ではなく、本邦においては、各がん領域の学会あるいは大学等が中心となり、RWDへの取り組みが活性化しています。

医療ビッグデータを利活用するには、(1)データサイエンスに関するスキル、(2)データリテラシーに関するスキル、について、これまでの臨床研究以上に必要とされます。本コースでは、これらのスキルの取得を目指します。

(1) データサイエンス

データサイエンスでは、医療統計学に関する知識・応用について学びます。医療統計学では、生存時間解析を中心に学ぶとともに、傾向スコア分析およびデータマイニング・機械学習といったビッグデータを解析するための方法に関する基礎的な知識を学びます。また、医療ビッグデータがいわゆる観察研究の位置づけになることから、がん疫学に関する諸種の統計指標の意味、および観察研究(疫学研究)のデザインの方法について身に着けます。さらに、RWDを用いたがん臨床研究の学術論文を通じて最近の動向、がん疫学に関する特別講演を実施します。

(2) 統計ソフトウェアを用いた実習

データサイエンスは、知識だけでなく、「実際の研究の場」で活かさなければいけません。そのため、本コースでは、統計ソフトウェアEZRおよびRを用いた実習を通じて、データサイエンス手法を活用する方法について学びます。そこでは、生存時間解析の基礎的な解析方法だけでなく、RWDの解析で広範に用いられる傾向スコア分析、およびメタアナリシスについて実習します。

修了要件と履修方法

【講義】

- データ・アナリティクス(5単位)
(推測統計学概論、生存時間解析、がん疫学研究概論、統計的因果推論、メタアナリシス、傾向スコア分析)

【特別講義】

- がん疫学研究の実際(1単位)
- 医療ビッグデータの現況(1単位)

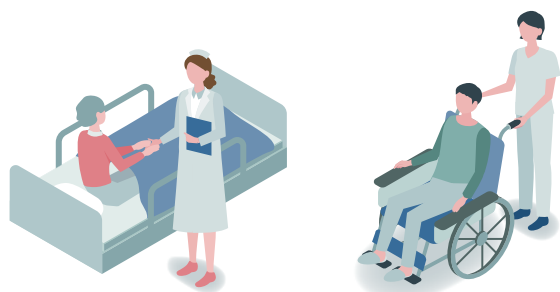
【演習】

- データ・アナリティック演習(5単位)
(統計的推測、生存時間解析、メタアナリシス、傾向スコア分析)

▽がんリハビリテーション看護インテンシブコース

がんと共存する時代の中で、がん患者自身がセルフケアにより健康に生活するための生活機能を維持、向上することを支援できる人材の育成を目指す。身体的側面だけでなく、精神的側面・社会的・スピリチュアルな側面にも着目したQOLの維持、向上が行える。患者の病期を踏まえ、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を包括的にアセスメントし、がんリハビリテーション看護が提供できる人材の育成を目指します。

がんリハビリテーション看護を理解し、患者がリハビリテーションを継続するために、専門的な知識を基盤に、協働できる医療者の育成を目標としています。



修了要件と履修方法

講義(各1単位)6単位、演習2単位を全て履修すること。
修了証の発行。
がんプロ全国e-learning収録の講義を視聴(Web)。

【講義】6単位

- 病態生理：1単位
- がんリハビリテーションにおける看護師の役割：1単位
- 心のリハビリテーション：1単位
- 理学療法士としての看護に繋げる専門的な関わり(病期による介入の変化)：1単位
- リンパ浮腫のアセスメント：1単位
- 就労支援とがんリハビリテーション：1単位

【演習】2単位

- 症例の展開：講義の内容を踏まえ、1症例に関してグループディスカッションを行い、病期の変化に対応したがんリハビリテーション看護の計画を立案する。
- 病期(病状)の変化への対応：全人的な苦痛を考慮し、就労や社会復帰を見据えた患者のQOL向上を目指すがんリハビリテーション看護の計画を立案する。

コーディネーターおよび各コース責任者紹介

がんプロフェSSIONAL養成プラン コーディネーター

教授 山本 信之



がん薬物療法専門医養成コース

教授 山本 信之



緩和医療専門医養成コース

准教授 月山 淑



病理診断科育成コース

教授 村田 晋一



がん薬剤師養成コース

教授 今井 哲司



がん看護専門看護師養成コース

教授 山田 忍



がん医療ビッグデータ利活用
ベーシックコース

教授 下川 敏雄



がんリハビリテーション看護
インテンシブコース

教授 山田 忍

